

スイッチのLink Layer Discovery Protocol(LLDP)統計情報の表示

目的

Link Layer Discovery Protocol(LLDP)Media Endpoint Discovery(MED)は、音声やビデオ、デバイスロケーション検出、トラブルシューティング情報などのアプリケーションのネットワークポリシーのアドバタイズを可能にするなど、メディアエンドポイントデバイスをサポートする追加機能を提供します。LLDPとCisco Discovery Protocol(CDP)はどちらも同様のプロトコルであり、LLDPはベンダーの相互運用性を促進し、CDPはシスコ独自のものであるという違いがあります。LLDPは、ユーザがシスコ独自ではないデバイスとシスコ独自のデバイスの間で作業する必要があるシナリオで使用できます。

LLDPプロトコルは、トラブルシューティングの目的でネットワーク管理者に役立ちます。スイッチは、ポートの現在のLLDPステータスに関するすべての情報を提供します。ネットワーク管理者はこの情報を使用して、ネットワーク内の接続の問題を修正できます。

この記事では、スイッチのLLDP統計情報を表示する方法について説明します。

該当するデバイス

- Sx200シリーズ
- Sx250シリーズ
- Sx300シリーズ
- Sx350シリーズ
- SG350Xシリーズ
- Sx500シリーズ
- Sx550Xシリーズ

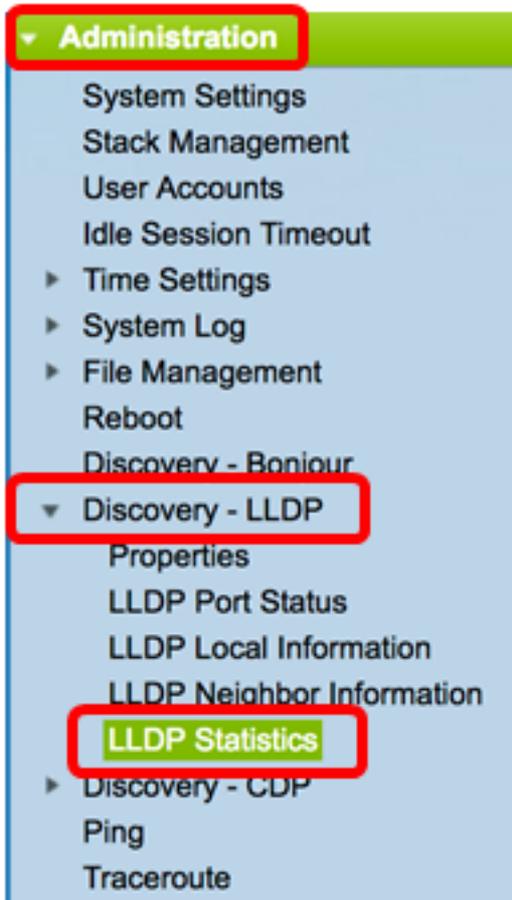
[Software Version]

- 1.4.7.06 — Sx200、Sx300、Sx500
- 2.2.5.68 — Sx250、Sx350、SG350X、Sx550X

スイッチのLLDP統計情報の表示

ステップ1 : スwitchのWebベースのユーティリティにログインし、[Administration] > [Discover - LLDP] > [LLDP Statistics]を選択します。

注 : 使用できるメニューオプションは、デバイスのモデルによって異なります。この例では、SG350X-48MPが使用されています。



LLDP統計情報テーブルには、ポートごとに次のLLDP統計情報が表示されます。

LLDP Statistics

LLDP Statistics Table								
Interface	Tx Frames	Rx Frames			Rx TLVs		Neighbor's Information	
	Total	Total	Discarded	Errors	Discarded	Unrecognized	Deletion Count	
GE1	0	0	0	0	0	0	0	
GE2	0	0	0	0	0	0	0	
GE3	11299	33261	0	0	0	0	0	
GE4	11290	11268	0	0	0	0	0	
GE5	0	0	0	0	0	0	0	
GE6	0	0	0	0	0	0	0	
GE7	0	0	0	0	0	0	0	
GE8	0	0	0	0	0	0	0	
GE9	0	0	0	0	0	0	0	

- Interface : インターフェイスのID。これは、アウトオブバンド(OOB)ポートにすることもできます。
- Tx Frames : 送信フレーム。
 - Total : 送信されたフレームの合計数。
- Rx Frames : 受信したフレーム。
 - Total : 受信フレームの合計数。

- Discarded : 廃棄された受信フレームの合計数。
- Errors : 受信したエラーのあるフレームの総数。
- Rx TLVs:Received frame Type-Length-Values(TLV)。
 - Discarded : 廃棄された受信TLVの合計数。
 - Unrecognized : 認識されなかった受信TLVの総数。
- Neighbor's Information Deletion Count : 存続可能時間(TTL)の後に情報が削除されたインターフェイス上のネイバーの数、またはインターフェイス値でネイバーがアクティブなままになっている秒数の有効期限。

ステップ2: (オプション) [更新]をクリックして**最新**の統計情報を表示します。

GE45	0	0	0	0	0	0	0
GE46	0	0	0	0	0	0	0
GE47	0	0	0	0	0	0	0
GE48	0	0	0	0	0	0	0
XG1	0	0	0	0	0	0	0
XG2	65	59	0	0	0	0	1
Refresh							

これで、スイッチのLLDP統計情報が表示されるはずですよ。